

6.情報発信（広報・広告、メルマガ、講師派遣など）

図書館は、地域の情報センターとして、市民サービスの向上及び地域の活性化を図るため、ICT（Information and Communication Technology）ツールを活用した情報配信広報・広告事業を進めている。

広報・広告事業では、ホームページのバナー広告は、4社（短期契約を含む）。予約本引き当て等に使用するレシート用紙広告は、地元商店街・民間事業者及び市内の各課から依頼があり、ロール紙436本の納入があった。市内を常時巡回し、市民の目に触れる機会も多い「動く図書館」のラッピング広告は契約満了となり、現在事業者を募集している。

平成23年度は、豊中の市政に関心のある市民向けに作成された「データブック☆とよなか」（とよなか都市創造研究所発行）にも図書館の様々なデータやサービスを紹介し、図書館サービスへの理解と利用の促進を図った。また、国立国会図書館を中心に全国の図書館で構築しているレファレンス協同データベース（レファ協）に地域情報を主としたレファレンス事例を登録し、発信するよう取組んだ。

豊中市立図書館メルマガジンは、登録者総数1,325件、配信数72回。図書館の新作図書・イベント情報だけではなく、市内各課の協力を得て「花と緑の相談所ニュース」など1年間継続的に配信できる情報も増えている。今後、YA!BOOK通信をはじめとする発行物を、必要とする利用者に届くようホームページやメルマガジンなど様々な媒体に変えて発信していく

近年、地域の要望を受けて各図書館職員が講師となり、積極的に情報発信を行っている。情報発信を通じ図書館の役割を伝え、地域との関係を深め、そこで掴んだニーズを豊中の図書館サービスに反映させていきたい。

日本図書館協会（JLA）をはじめ各地から講師派遣の依頼があり、図書館評価システム、北摂アーカイブス等を紹介・発表する機会があり、豊中の図書館事業を広くPRすることができた。

講師派遣等一覧(抜粋)

名称	日程	場所	テーマ
第20回京都図書館大会	9月2日	同志社大学寒梅館	北摂アーカイブスについて
第97回全国図書館大会	10月14日	調布市教育会館	第2分科会豊中市の図書館評価について
図書館司書専門講座	10月21日	国立教育政策研究所	図書館評価について
ボランティア体験聞き取り学習	10月26日	第十八中学校	ボランティアについて
堺メモリー(全4回講座の1講座担当)	2月5日	堺市立中央図書館	今後のサポーターの活動について
滋賀県立公共図書館協議会研修会	2月9日	滋賀県立図書館	図書館サービスを見直す
中之島図書館スキルアップ研修	3月8日	中之島図書館	広報・広告事業について

書名／編集	担当部分	出版社	出版テーマ
『デジタル文化資源の活用～地域の記憶とアーカイブ』知的資源イニシアティブ／編 平成23年7月出版	「地域情報は住民のなかにある 北摂アーカイブスの成り立ちと展望」	勉誠出版	人間のあらゆる知的活動の所産である「文化資源」とそれを活かすデジタル技術に対する政策提言

他、図書館の研究会でも発表を行った。

7. 図書館協議会

年3回の開催(6・11・2月開催)のなかで、23年度の機構改革によって読書振興課が新設され、公共図書館と学校図書館司書が所属することになったことの報告、「とよなかブックプラネット事業」、豊中市立図書館の課題解決支援機能、22年度の「豊中市の図書館活動」「豊中市立図書館評価システム」、「人の、地域の、日本の未来を育てる読書環境の実現について」(文部科学省：国民の読書推進に関する協力者会議)の意見交換、24年度の事業計画、24年度実施予定の外部評価について討議が行われた。

22年度からの諮問に対して「豊中市立図書館の“市民の課題解決を支援するサービス”について(中間まとめ)」をいただいた。今後、「暮らしの課題解決支援サービス」の取組みを進めるうえで、考え方の指針としていきたい。

委員の任期(2年)切れを迎え、6月末をもって新委員の体制に替わった。

平成23年度の委員一覧

名前	団体名・役職等
舟岡直子	小学校長代表
高橋孝子	中学校長代表
三木晴美	幼稚園長会
島野昌子	婦人団体連絡協議会
松田美和子	豊中子ども文庫連絡会
鶴川まき	豊中図書館の未来を考える会
◎ 中川幾郎	学識経験者
○ 塩見昇	学識経験者
村上泰子	学識経験者
曾谷昌	学識経験者

◎委員長 ○委員長職務代行者

8. 図書館評価

図書館運営を振り返り、これからの図書館がめざすべきビジョンを明確にするとともに、地域との情報共有を図る仕組みとして20年度から「豊中市立図書館評価システム」を導入し、図書館運営に関する自己点検と外部評価を実施している。

23年度については「豊中市立図書館評価システム」評価表「リーディング項目」について単年度の振り返りを行うとともに、3年毎の目標値に対する振り返りと総括を行い、自己点検・評価を実施する。これらの詳細については別途報告書を参照されたい。

24年度には「来館者アンケート」と郵送による「市民アンケート」の実施も予定しており、上記の自己点検・評価の結果と合わせて外部評価を実施し、図書館運営の改善につなげていく。

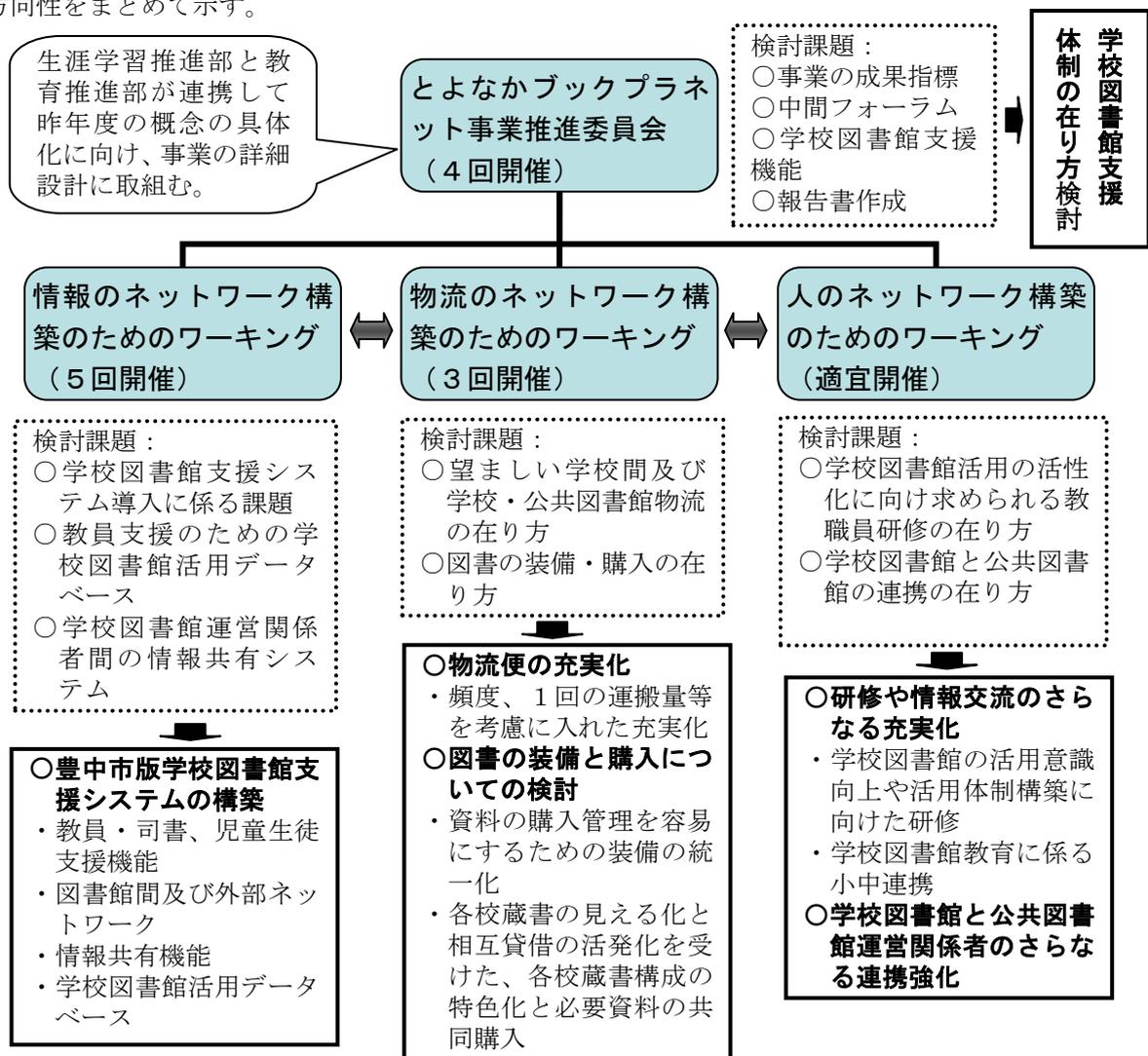
9. とよなかブックプラネット事業

23年度、「とよなかブックプラネット事業」は、公共図書館と学校図書館の連携強化並びに学校図書館教育の環境充実をめざし新設された「読書振興課」が引き継いだ。また、本事業が、教育内容とも大きく関わることから、生涯学習推進部と教育推進部の協働による「とよなかブック

「プラネット事業推進委員会」を設置、教育委員会の横断的な取組みとして、22年度の「概念設計」を受け「詳細設計」を進めてきた。コンセプトを具体化するため、学校図書館運営関係者と教育委員会各担当で構成する、ワーキンググループを設置した。学校図書館教育から生み出される情報をどのように共有・活用するか、児童生徒の情報を守りつつ、学校図書館のサービス充実化をいかに図るか、そのために必要な環境、条件または課題について学校現場の担当者へのアンケート調査を実施するなど、詳細な議論を行った。

さらに、読書振興課、小中学校チーム、教育センターが連携を図り、言語活動充実に向けた学校図書館活用例、司書教諭の役割といった実践的な事例に主眼を置き、学校図書館の役割を再認識できるよう研修の充実に努めた。加えて、司書連絡会を通じて学校図書館と公共図書館の連携強化に取り組んだ。

以下に、22年度の推進委員会とワーキングにおける検討課題と、議論の結果導かれた今後の方向性をまとめて示す。



学校図書館支援システムや物流便、公共図書館の学校支援など環境面の整備については、一定方向性が見えてきており、24年度から具体化するため準備を進める。一方で、充実した環境を維持・発展させるための支援体制の在り方と、「学校図書館の役割とめざす姿」の実現に向けて、環境を十分に活用し学校図書館教育を推進する方途については、一層の議論と啓発が必要である。